

中部Aグループ

(関係市町村: 桜井市、明日香村)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
桜井市、明日香村
- **主な公共交通機関**
 - ・JR 桜井線(万葉まほろば線)
 - ・近鉄 大阪線、橿原線、南大阪線
 - ・奈良交通(桜井飛鳥線)
 - ・コミュニティバス:桜井市コミュニティバス、あすかデマンド乗合交通
- **主な利用データ※**
 - ・JR桜井駅 乗車人員 1,925人/日(R6)
 - ・近鉄桜井駅 乗降人員 13,846人/日(R6)
 - ・橿原神宮前 乗降人員 16,353人/日(R6)
 - ・飛鳥駅 乗降人員 1,930人/日(R6)
 - ・桜井飛鳥線:5診断指標達成(R7)

- **関係情報**
 - ・「桜井駅周辺地区まちづくり基本計画(H30.10月(R5.4月改定))」
 - ・牽牛子塚古墳の一般公開(R4.3月~)
 - ・NAFIC附属セミナーハウスが開校(R4年度)
 - ・明日香村役場新庁舎開庁(R5.5月)
 - ・「飛鳥・藤原」世界文化遺産登録(R8年予定)※「石舞台古墳」を始めとする世界文化遺産構成資産候補が19箇所所在
 - ・星野リゾートが宿泊施設開業予定(R9年予定)
 - ・「明日香まるごと博物館」地域計画の推進
 - ・「飛鳥宮跡周辺地区まちづくり基本構想、飛鳥駅周辺地区まちづくり基本構想(H29.6月)」の推進
 - ・飛鳥京跡苑池の整備
 - ・桜井市内の駅前等にシェアサイクルポート設置
 - ・奈良県・奈良商工会議所と連携して「ならSLOW&LOOP」プロジェクト始動(R6年12月~)
 - ・主に桜井線・和歌山線を走行する列車に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインを貼り付けた列車を運行(R7年8月~R8年3月)桜井市の観光PRイベントを奈良駅で実施(R7年12月)

令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- ・桜井飛鳥線:診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

【位置付け】

- 通院や事業所等への通勤といった生活利用があるが、観光利用の占める割合が多く、観光客の変動で収支率が大きく変動する

【課題】

- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
- JR・近鉄桜井駅から観光エリアへのアクセスを桜井飛鳥線が担っており、現在運行している観光周遊バス等とのシームレスな接続が必要
- 観光客に対し、公共交通で来訪いただくためにどのような仕掛けを行うか
- 車を運転できない高齢者層を中心に、住民の移動手段確保をどのように実現するか

取組の方向性

ー住民向けー

【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

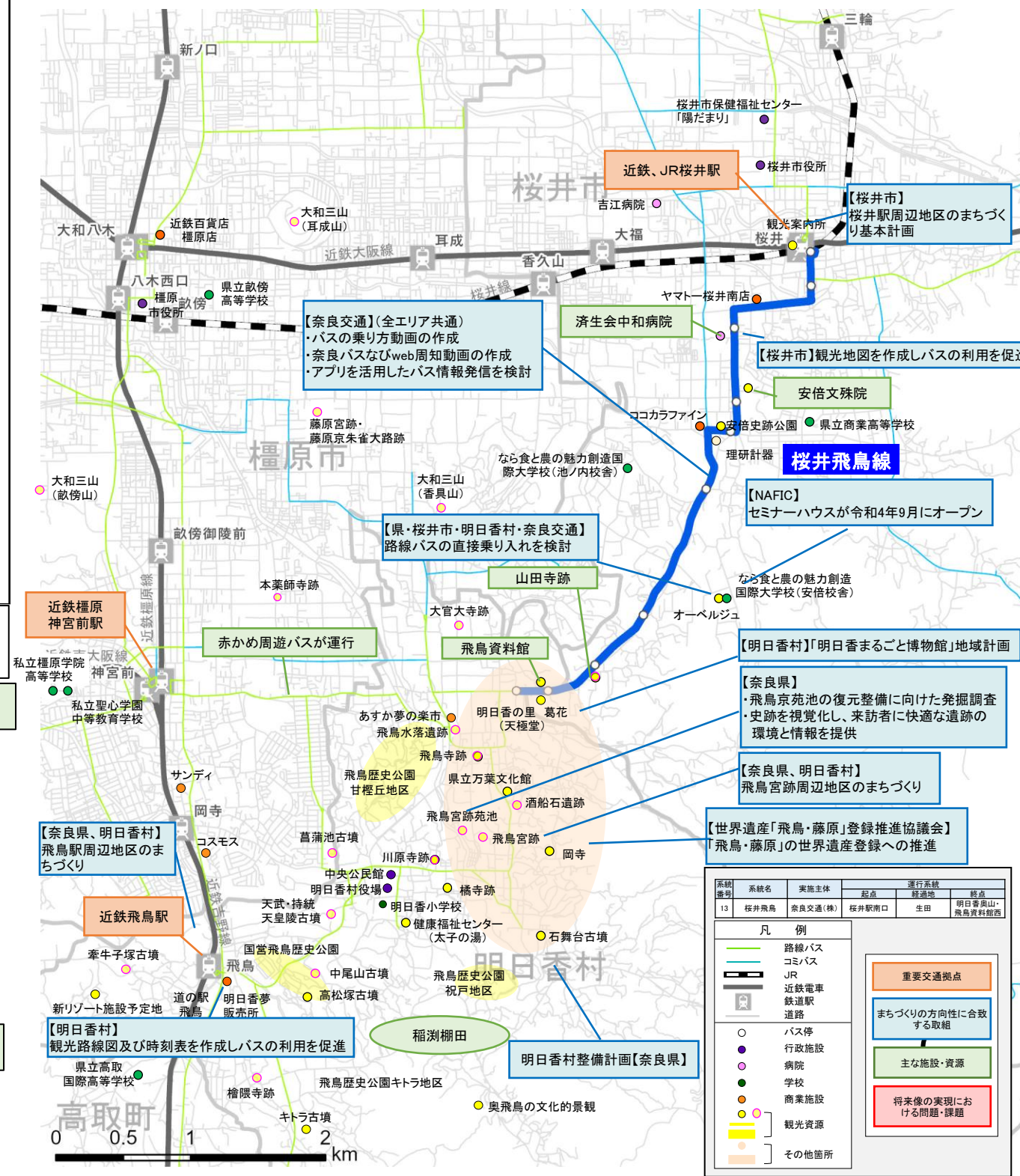
- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 通院・通学需要の公共交通利用への取込

ー観光客向けー

【目標】公共交通を利用した周遊観光のための取組実施

- 既存のコミュニティバスや周辺施設等と連携したにぎわい創出の取組検討
- 公共交通の利用に繋がる観光イベントの企画・発信を強化

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区画データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンソーシアムGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

バスカルテ	1便あたり利用者数		平均乗車密度		最大乗車人員		収支率		利用者一人あたりの行政負担額		
	【基準】3人以上	○	【基準】2人以上	○	【基準】10人以上	○	【基準】40%以上	○	【基準】2,000円以下	○	
桜井飛鳥線	令和7年度	3.8	○	2.5	○	14	○	40.9	○	392	○
	令和6年度	3.6	○	2.6	○	15	○	42.8	○	450	○

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	済生会中和病院への通院需要の取り込み
取組内容	・朝の通院時間と運行ダイヤを調整し、通院需要の取り込みができるような仕組みを検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、明日香村、奈良交通
実施効果	バス利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	通勤、通学需要の取り込み
取組内容	・朝の桜井駅方面の通勤・通学利用者の移動ニーズに基づく公共交通を利用しやすい仕組み作りの検討
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県、奈良交通
実施効果	バス利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通と観光地等が連携した公共交通アクセスの確保や利用の促進
取組内容	・県内外からの公共交通を利用する観光客に対する、観光地等と連携した観光プランを提供するとともに、にぎわい創出の取組を検討
実施主体・協力主体	桜井市、明日香村、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	交通事業者と市関係施設が連携した公共交通利用促進
取組内容	・市関係施設との連携による公共交通利用促進のイベント等を検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者の増加、施設利用者の増加
実施期間	R5.4～

取組名	住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の運行事業
取組内容	・点在する世界遺産構成遺産候補、商業施設や観光施設など交通手段が乏しく移動のサービスレベルが低い地域においてデマンド乗合交通を運行
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルートの作成
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成・周知
実施主体・協力主体	桜井市、明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	池之内地区の公共交通空白地解消
取組内容	・公共交通の空白地である池之内地区の公共交通アクセスの確保を検討
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県
実施効果	公共交通空白地解消
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	「飛鳥・藤原」の世界遺産登録を見込んだ取組
取組内容	・世界遺産登録を見込み、観光客の受け入れ体制の検討・実施および、周遊観光の検討・実施 ・自動車利用から公共交通利用への転換と桜井～明日香方面の移動円滑化を図るため、桜井駅周辺にパーク＆ライド駐車場の整備を検討・実施 ・観光客及び住民の利用を促すため、桜井飛鳥線をNAFIC及び万葉文化館まで延伸し、土日祝を増便する実証運行を実施
実施主体・協力主体	桜井市、明日香村、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスでの活用
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	ガイド付きグリーンスローモビリティ運行事業
取組内容	・飛鳥京歴史ゾーンエリアにおけるガイド付きグリーンスローモビリティによる史跡や施設等ツアーの実証実験の実施
実施主体・協力主体	明日香村
実施効果	マイカー流入の抑制を図りながら、公共交通への利用転換
実施期間	R8.1～

中部Bグループ

(関係市町村: 榎原市、高取町、明日香村、大淀町)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
 橿原市、高取町、明日香村、大淀町
- **主な公共交通機関**
 - ・JR: 桜井線(万葉まほろば線) 和歌山線
 - ・近鉄: 大阪線 橿原線 南大阪線 吉野線
 - ・奈良交通: 飛鳥線 八木下市線
 - ・コミバス: 橿原市コミュニティバス、よどりバス(大淀町)
 - ・デマンド: あすかデマンド乗合交通(明日香村)、よどりタクシー(大淀町)
- **主な利用データ**
 - ・JR 畷傍駅 乗車人員 633人/日(R6)
 - ・大和八木駅 乗降人員 34,158人/日(R6)
 - ・橿原神宮前駅 乗降人員 16,353人/日(R6)
 - ・壺阪山駅 乗降人員 970人/日(R6)
 - ・飛鳥駅 乗降人員 1,930人/日(R6)
 - ・下市口駅 乗降人員 1,769人/日(R6)
 - ・飛鳥線A: 5診断指標達成(R7)
 - ・飛鳥線B: 5診断指標のうち、収支率が未達成(R6~)
 - ・八木下市線: 5診断指標のうち、収支率が未達成(H30~)
- **関係情報**
 - ・「飛鳥・藤原」世界文化遺産登録(R8年予定)※「石舞台古墳」を始めとする世界文化遺産構成資産候補が19箇所所在
 - ・明日香村新庁舎が令和5年5月に開庁

- ・星野リゾートが宿泊施設開業予定(R9年予定)
- ・飛鳥駅南側の見瀬池に「スーパーエバグリーン飛鳥店」が開業(R6.4月~)
- ・令和5年度及び6年度にキトラ古墳等を巡る自動運転バスの実証実験を実施
- ・キトラ古墳壁画、高松塚古墳修復作業室公開
- ・牽牛子塚古墳が整備公開(R4.3月~)
- ・例年2~3月ごろに、「あすかいちご列車」(近鉄)、「あすかいちごバス」(奈良交通)を運行され、好評
- ・高取町では、11月「たかとり城まつり」に、多くの観光客が来訪
- ・稲渚の棚田は、日本の棚田百選、奥飛鳥の文化的景観に選定されている
- ・電車通学により下市口駅で乗降する小中学生が約300人/日おり、福神駅や六田駅からの利用が多い
- ・「奈良世界遺産フリーきっぷ」「古代ロマン飛鳥日帰りきっぷ」(鉄道と路線バスがセットになったフリーきっぷ)を販売中
- ・高松塚古墳壁画の新しい保存展示施設が国営飛鳥歴史公園内にオープン予定(R11までに)
- ・橿原市内にシェアサイクルポート設置
- ・橿原市内の桜井線の3駅(香久山駅・畷傍駅・金橋駅)に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインした駅名標を掲出(R6.12~)
- ・奈良県・奈良商工会議所と連携して「ならSLOW & LOOP」プロジェクト始動(R6年12月~)
- ・主に桜井線・和歌山線を走行する列車に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインを貼り付けた列車を運行(R7年8月~R8年3月)

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・八木下市線: 診断指標5項目の達成

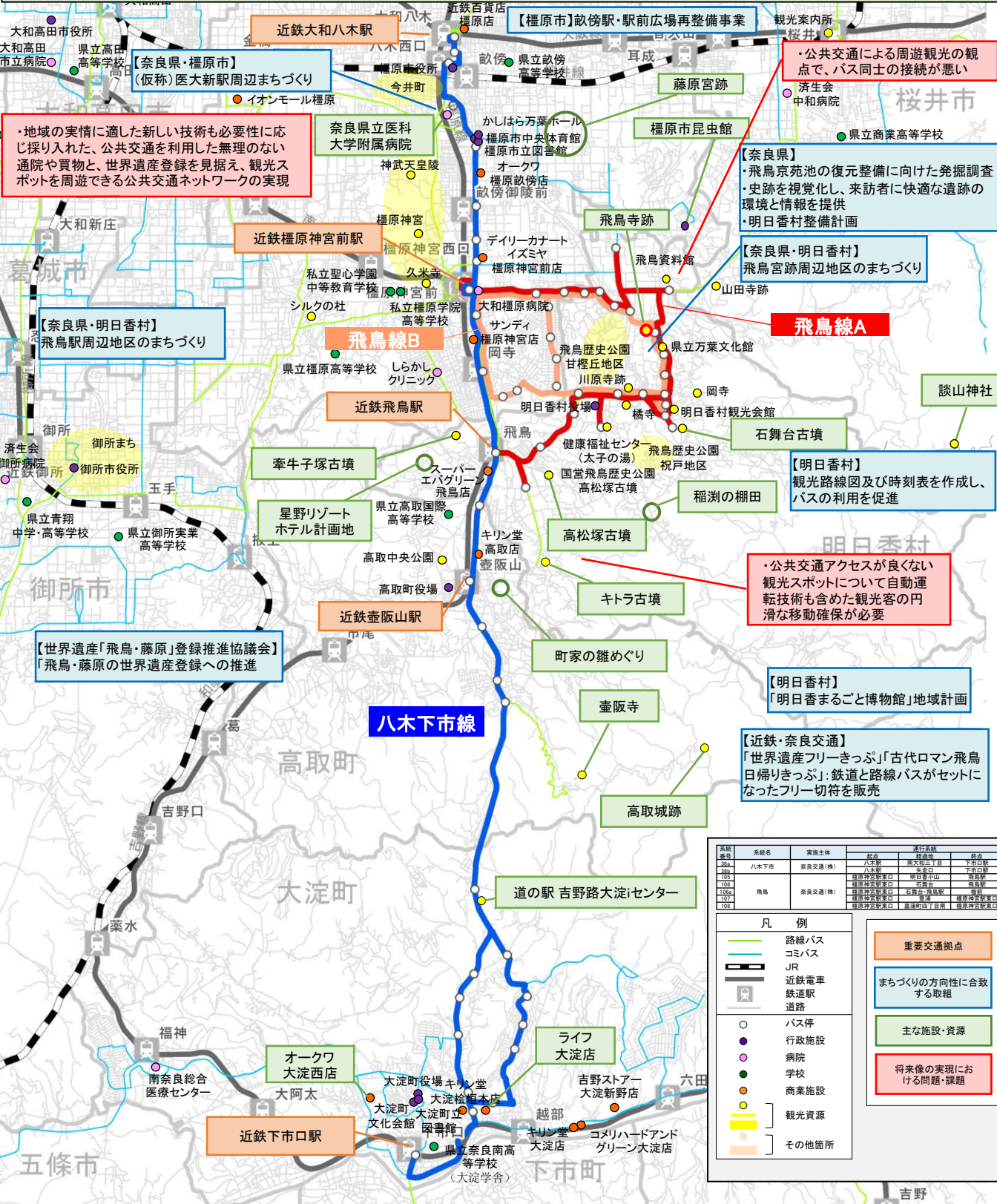
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 明日香周遊バス(赤かめ)は橿原神宮前駅から明日香村内主要施設等を経由し飛鳥駅までを周遊運行しており、生活の足としても重要
 - 近鉄吉野線は生活路線である一方、著名観光地である飛鳥・吉野方面への観光路線としても機能
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 世界遺産登録を見据え、沿線に点在する観光地を公共交通で周遊できるネットワーク整備が必要
 - 明日香村役場新庁舎や星野リゾート等、新施設へのアクセス手段をどのように確保するか

取組の方向性

- 住民向け —
- 【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に
 - 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
 - デジタル技術等を活用した新たな交通サービスの検討
- 観光客向け —
- 【目標】公共交通を利用した周遊観光のための取組実施
 - 公共交通を活用した王道周遊ルート(ゴールデンルート)の組成・周知・浸透
 - デジタル技術等を活用した新たな交通サービスの検討

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区画データ)(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験(国土地理院)のデータをもとに、コンサベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

バスカルテ		1便あたり利用者数		平均乗車密度		最大乗車人員		収支率		利用者一人あたりの行政負担額	
		【基準】3人以上	○	【基準】2人以上	○	【基準】10人以上	○	【基準】40%以上	×	【基準】2,000円以下	○
八木下市線	令和7年度	12.6	○	2.2	○	22	○	25.9	×	529	○
	令和6年度	12.6	○	2.6	○	24	○	32.1	×	533	○
飛鳥線A	令和7年度	14	○	5.0	○	37	○	60.5	○	302	○
	令和6年度	14.7	○	5.2	○	23	○	64.6	○	43	○
飛鳥線B	令和7年度	10.4	○	2.7	○	15	○	34.7	×	281	○
	令和6年度	9.7	○	2.9	○	18	○	39.7	×	48	○

: 重点取組事項

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	住民の超高齢化への対応と公共交通による世界遺産周遊を実現する公共交通ネットワークの構築
取組内容	・超高齢化社会等社会情勢の変化、新庁舎開庁に応じた、生活に必要な移動手段の確保 ・飛鳥駅周辺を拠点として、自動運転も含めた、各観光資産・施設を周遊出来る交通体系づくり
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者の増加、利便性の向上
実施期間	R4.12～

取組名	飛鳥駅への路線バス乗入れの検討
取組内容	・地域の玄関口である飛鳥駅の結節点機能強化として八木下市線の乗入れを検討
実施主体・協力主体	橿原市、高取町、明日香村、大淀町、奈良交通、奈良県
実施効果	利便性の向上、安全性の向上
実施期間	H28.4～

取組名	観光客向けモデルルートの作成
取組内容	・国営飛鳥歴史公園を含む各観光施設等を公共交通で巡る観光モデルルートを作成・周知し、公共交通の利用者増加を図るとともに、快適な移動環境の提供を図る
実施主体・協力主体	沿線市町村、近畿日本鉄道、奈良交通、奈良県
実施効果	公共交通利用者の増加、利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の運行
取組内容	・点在する世界遺産構成遺産候補、商業施設や観光施設など交通手段が乏しく移動のサービスレベルが低い地域においてデマンド乗合交通を運行
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.12～

取組名	住民向けのモデルルートの作成・展開
取組内容	・病院、買い物にて公共交通の利用を促進するため、どの時間にバスに乗り、用事を済ませ、どの時間のバスに乗れば何時に帰宅できるといった住民向けのモデルコースを作成・展開
実施主体・協力主体	沿線市町村、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	「飛鳥・藤原」の世界遺産登録を見据えた取組検討
取組内容	・世界遺産登録を見据え、観光客の受け入れ体制の検討および、周遊観光の検討・実施 ・域内の自動車利用増大を抑えるため、転換と明日香方面の移動円滑化を図るため、パーク&ライド駐車場の整備を検討・実施
実施主体・協力主体	沿線市町村、交通事業者、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	周辺施設と連携した利用者インセンティブ施策や駅舎等の施設の利活用の実施
取組内容	・周辺施設と連携したインセンティブ施策や、駅舎等の利活用に向けた取組を検討・実施
実施主体・協力主体	沿線市町村、近畿日本鉄道、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	鉄道・バスフリーきっぷの課題分析と今後の取組検討・実施
取組内容	・鉄道・バスフリーきっぷの利用をさらに積み増すための課題分析と今後の取組について。検討・実施
実施主体・協力主体	明日香村、奈良交通、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	新たな小型モビリティ等による周遊性の拡充
取組内容	・村内を隅々まで快適に周遊できる環境づくりの検討
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

○中部Bにおける重点取組事項について

○住民の超高齢化への対応と公共交通による世界遺産周遊を実現する公共交通ネットワークの構築

重点取組事項のねらい	地域の実情に適した新しい技術も必要性に応じ採り入れた、公共交通を利用した無理のない通院や買物と、世界遺産登録を見据え、観光スポットを周遊できる公共交通ネットワークの実現
実施効果	公共交通利用者の増加、利便性の向上
活用する支援制度	公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R5)	2年目(R6)	3年目(R7)～
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者における中長期的な乗務員不足と地域の周遊需要に対応した、自動運転とデマンド交通の実証実験 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度実証結果等を踏まえた、翌年度以降明日香村及び周辺市町村で実施する施策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 明日香村及び周辺市町村での施策実施
役割分担 (※1:実施主体)	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 主要観光拠点を結ぶ小型バスによる自動運転実証運行 住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の実証運行の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 先行事例や成功事例の提供、企画に対する支援、関係者間調整 	<ul style="list-style-type: none"> 先行事例や成功事例の提供、企画に対する支援、関係者間調整
	明日香村(、橿原市、高取町、大淀町)※1	<ul style="list-style-type: none"> 主要観光拠点を結ぶ小型バスによる自動運転実証運行 住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の実証運行 近鉄飛鳥駅の拠点機能の強化(八木下市線乗入調整) 電動三輪車(側車付き軽二輪)による観光二次交通の実証実験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度実証結果の交通ネットワークへのフィードバック検討 電動三輪車(側車付き軽二輪)による観光二次交通の導入検討 パークアンドライド等、明日香村及び周辺市町村(橿原市、高取町、大淀町)との調整を要する取組事項の実施に向けた検討(八木下市線乗入調整含む) 	<ul style="list-style-type: none"> パークアンドライド等、明日香村及び周辺市町村(橿原市、高取町、大淀町)との調整を要する取組事項の実施に向けた検討(八木下市線乗入調整含む)
	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> 主要観光拠点を結ぶ小型バスによる自動運転実証運行 住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の実証運行 (近鉄飛鳥駅の拠点機能の強化(八木下市線乗入調整)) 利用データの整理・分析 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度実証結果の交通ネットワークへのフィードバック パークアンドライド等、明日香村及び周辺市町村(橿原市、高取町、大淀町)との調整を要する取組事項の実施に向けた検討(八木下市線乗入調整含む) 	<ul style="list-style-type: none"> パークアンドライド等、明日香村及び周辺市町村(橿原市、高取町、大淀町)との調整を要する取組事項の実施に向けた検討(八木下市線乗入調整含む)
関係する補助		<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業

中部Cグループ

(関係市町村：橿原市、御所市、高取町)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
橿原市、御所市、高取町
- **主な公共交通機関**
 - ・JR 桜井線 和歌山線
 - ・近鉄 大阪線 南大阪線 吉野線 橿原線
 - ・奈良交通 八木御所線
 - ・コミュニティバス: 橿原市コミュニティバス、ひまわり号(御所市)
- **主な利用データ**
 - ・JR御所駅 乗車人員 633人/日(R6)
 - ・JR掖上駅 乗車人員 93人/日(R6)
 - ・近鉄御所駅 乗降人員 2,525人/日(R6)
 - ・大和八木駅 乗降人員 34,158人/日(R6)
 - ・橿原神宮前駅 乗降人員 16,353人/日(R6)
 - ・八木御所線: 5診断指標のうち、収支率が未達成(R2~)
- **関係情報**
 - ・御所ICに隣接する地域では、奈良県と協働で自立的な地域経済構造の構築を目指した産業集積地の整備を図っている

- ・産業集積地を含めた御所IC付近のエリアを新たな工業区域ゾーンとして位置づけ、比較的大規模な製造業・物流業の立地を促進し、魅力的な雇用の場の創出に向けた産業基盤の構築を図っている
- ・「橿原市地域公共交通計画」(R5.3月)に基づき各種施策を推進
- ・御所まちの銭湯を中心としたまちづくり「GOSE SENTO HOTEL」がオープン(R4.10月)
- ・JR御所駅に交流スペース「まちかど案内所」を整備(R2.3月)
- ・和歌山線五条駅、御所駅を着地とする日帰り旅行商品「駅プラン」発売(R7年秋)
- ・橿原市内にシェアサイクルポート設置
- ・JR西日本の月刊情報誌(イベント・グルメ・旅情報等を掲載)「西Navi」10月号に御所市を特集
- ・橿原市内の桜井線の3駅(香久山駅・畝傍駅・金橋駅)に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインした駅名標を掲出(R6.12~)
- ・主に桜井線・和歌山線を走行する列車に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインを貼り付けた列車を運行(R7年8月~R8年3月)

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・八木御所線: 診断指標5項目、計画輸送量15人以上の達成

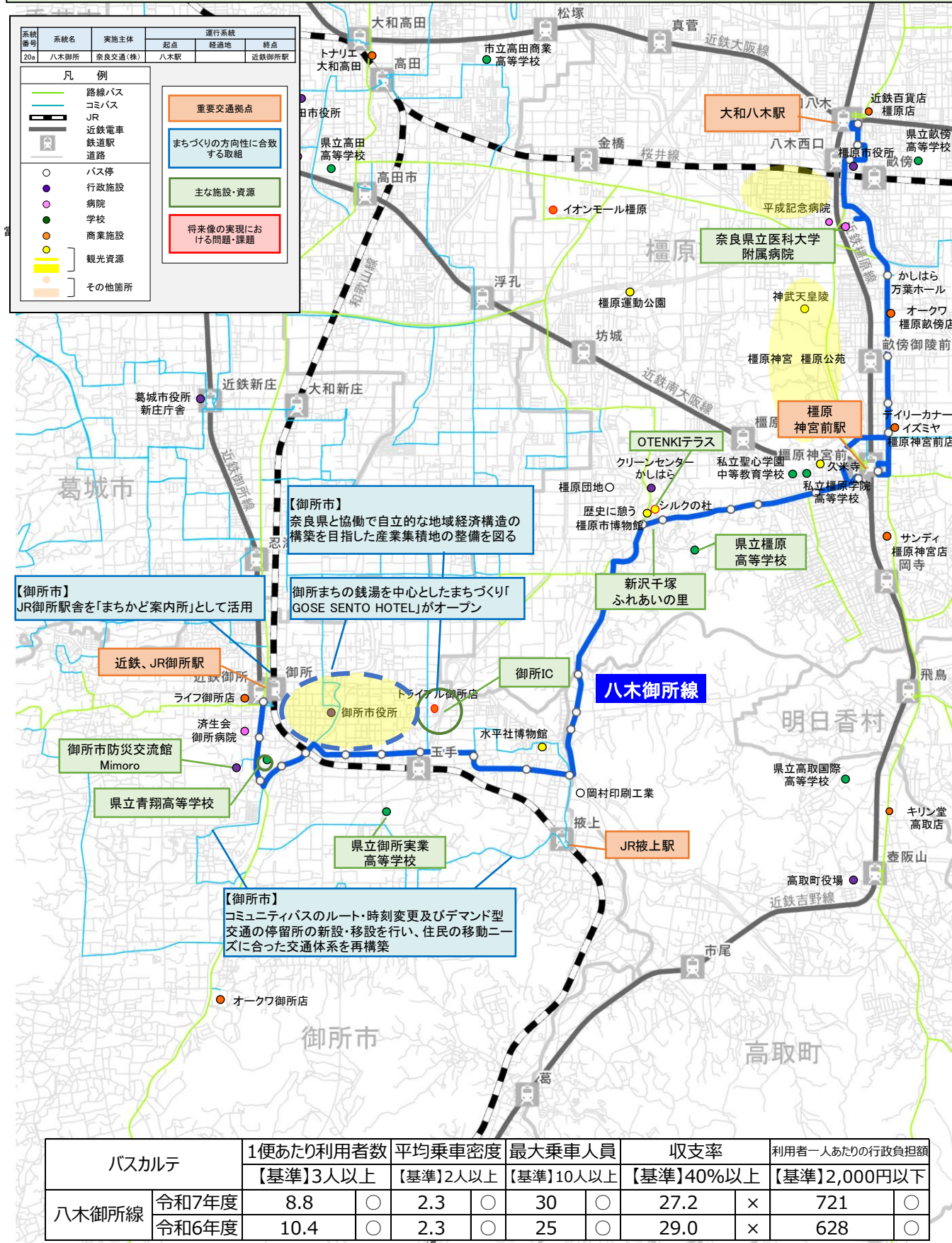
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 八木御所線沿線に4つの高等学校が立地している
 - 御所IC周辺では、産業集積地の整備を予定しており、企業立地による新たな通勤需要の発生が見込まれる
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 企業立地にあわせて、公共交通の利用環境を整備する必要がある
 - 商業施設、病院等の利用者の大半が自家用車を利用しており、公共交通利用増に向け、移動手段の確保、各施設と連携した取組の検討が必要
 - 学生の公共交通利用促進増に向けどのような仕掛けを行うか

取組の方向性

- 住民向け —
 - 【目標】買い物・通院等、必要な用事を車がなくても便利に
 - 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
 - 駅員が常駐しない駅を活用する取組を実施
 - 学生の公共交通利用促進に向けた取組の実施
- 観光客向け —
 - 【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施
 - 滞在型観光者増に向けた観光イベントの企画・実施
 - デジタル技術活用による需要創出
- 現在誘致している御所IC周辺企業向け —
 - 【目標】公共交通を利用した通勤のための取組実施
 - 企業誘致事業と連携した公共交通利用促進の取組実施
 - 公共交通を利用した通勤のPR及びインセンティブ付与の検討

まちづくりの方向性(イメージ図)



バスカルテ	1便あたり利用者数		平均乗車密度		最大乗車人員		収支率		利用者一人あたりの行政負担額		
	【基準】3人以上	○	【基準】2人以上	○	【基準】10人以上	○	【基準】40%以上	×	【基準】2,000円以下	○	
八木御所線	令和7年度	8.8	○	2.3	○	30	○	27.2	×	721	○
	令和6年度	10.4	○	2.3	○	25	○	29.0	×	628	○

【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンサベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	近鉄・JR御所駅の交通拠点としての機能強化
取組内容	・近鉄・JR御所駅が一体となった駅前空間の整備や御所中心市街地地区のまちづくりを進め、交通拠点としての機能強化を検討・実施する
実施主体・協力主体	御所市、奈良県、交通事業者
実施効果	鉄道駅の交通拠点機能強化
実施期間	R5.4～

取組名	JR御所駅及び掖上駅の活用
取組内容	・JR御所駅舎を、市が管理する「まちかど案内所」として引き続き活用 ・JR掖上駅についても同様に、駅舎改良等による地域拠点としての活用を検討
実施主体・協力主体	御所市、奈良県
実施効果	地域公共交通の利便性の向上、地域活性化
実施期間	R6.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成 ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	地域住民参画による移動手段の確保の検討
取組内容	・鉄道・バスによるカバー率の低い不便地区について、地域住民の主体的な取り組みを支援し、住民参画により検討を深め移動手段の確保を図る
実施主体・協力主体	橿原市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通と観光分野が連携した観光イベントの企画・実施
取組内容	・滞在型観光者の増を図るため、公共交通と観光分野が連携して観光イベントの企画・実施
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、高取町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通を利用する滞在型観光者増
実施期間	R5.4～

取組名	移動ニーズに応じた公共交通モードの提供
取組内容	・商業施設、病院等の利用者の移動ニーズを調査し、ニーズに応じた公共交通モードを検討し、自家用車から公共交通利用への転換を図る
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、高取町、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R4.4～

取組名	公共交通利用促進策の実施
取組内容	・公共交通の利用促進を促す施策を検討・改善・実施
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、奈良県
実施効果	公共交通利用者増
実施期間	R5.10～

誘致している御所IC周辺企業向けの取組

取組名	企業誘致事業と連携した公共交通利用促進
取組内容	・企業誘致担当部局と連携し、通勤需要を取り込めるような取組の検討・実施
実施主体・協力主体	御所市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R6.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通、橿原市、御所市
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	停留所方式のデマンド交通の導入
取組内容	・集落が点在している市南部の公共交通手段を確保するため、利便性の高い停留所方式のデマンド交通を導入
実施主体・協力主体	御所市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	(実証運行)R5.1～R7.3 (本格運行)R7.4～

中部E-1グループ

(関係市町村：大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町
- **主な公共交通機関**
 - ・JR 桜井線・和歌山線
 - ・近鉄 橿原線 御所線 大阪線 田原本線 南大阪線
 - ・奈良交通(高田新家線 高田イオンモール線 高田五條線)
 - ・コミュニティバス: きぼう号(大和高田市)、れんかちゃんバス(葛城市)、広陵元気号
- **主な利用データ**
 - ・JR高田駅 乗車人員 2,123人/日(R6)
 - ・JR金橋駅 乗車人員 666人/日(R6)
 - ・近鉄大和高田駅 乗降人員 13,770人/日(R6)
 - ・近鉄大和八木駅 乗降人員 34,158人/日(R6)
 - ・近鉄高田市駅 乗降人員 6,266人/日(R6)
 - ・近鉄尺土駅 乗降人員 4,103人/日(R6)
 - ・近鉄忍海駅 乗降人員 1,357人/日(R6)
 - ・近鉄箸尾駅 乗降人員 1,344人/日(R6)
 - ・高田新家線: 5診断指標達成(R7)
 - ・高田イオンモール線: 5診断指標達成(R7)
 - ・高田五條線: 5診断指標達成(R7)
- **関係情報**
 - ・大和高田市シビックコア周辺地区の整備(市役所新庁舎完成(R3.7月))により都市機能の集積とにぎやかな交流拠点を創出

- ・大和高田市のコミュニティバスは鉄道や路線バスとの連携を図り、地域交通ネットワークの形成を推進している
- ・「大和高田市地域公共交通計画(R4.3月)」交通結節点となる駅前まちづくりの推進、路線バスや病院送迎バス等との連携等の検討
- ・広陵町地域公共交通計画策定(R4.3月)に基づく運行再編(R5.7月: 予約型乗合バス「のるーと広陵元気号」の運行開始、R7.4月: 中央幹線ダイヤ・ルートの再編)
- ・住民アンケート及びワークショップの結果に基づいた運賃設定にしている(広陵元気号、のるーと広陵元気号)
- ・近鉄大和高田駅が市町境近くにあるため、効率的な公共交通ネットワークの検討には、市町の連携が重要
- ・橿原市内や広陵町内にシェアサイクルポート設置(R6～)
- ・橿原市内の桜井線の3駅(香久山駅・畝傍駅・金橋駅)に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインした駅名標を掲出(R6.12～)
- ・葛城市当麻庁舎エリアに図書館、プレイスペース、市民活動センター、市役所窓口などが一体となった複合施設をオープンし、まちのにぎわいを創出。(R9年予定)
- ・奈良県・奈良商工会議所と連携して「ならSLOW & LOOP」プロジェクト始動(R6年12月～)
- ・主に桜井線・和歌山線を走行する列車に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインを貼り付けた列車を運行(R7年8月～R8年3月)
- ・広陵町陣痛タクシーサービスを開始(R7.5月～)

令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- ・対象のバス路線: 診断指標5項目の達成
- ・JR金橋駅・近鉄箸尾駅の利用促進施策の実施
- ・エリアとして公共交通の利用促進に寄与することができる施策の実施

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

【位置付け】

- 高田新家線、高田五條線はともに通勤・通学の利用が多い
- 高田3駅エリアが地域の核として機能しており、3駅エリアのアクセス手段としてバスが機能し、バス路線の沿線にはイオンモール橿原、トナリエ大和高田、コスモプラザ等多くの施設が立地

【課題】

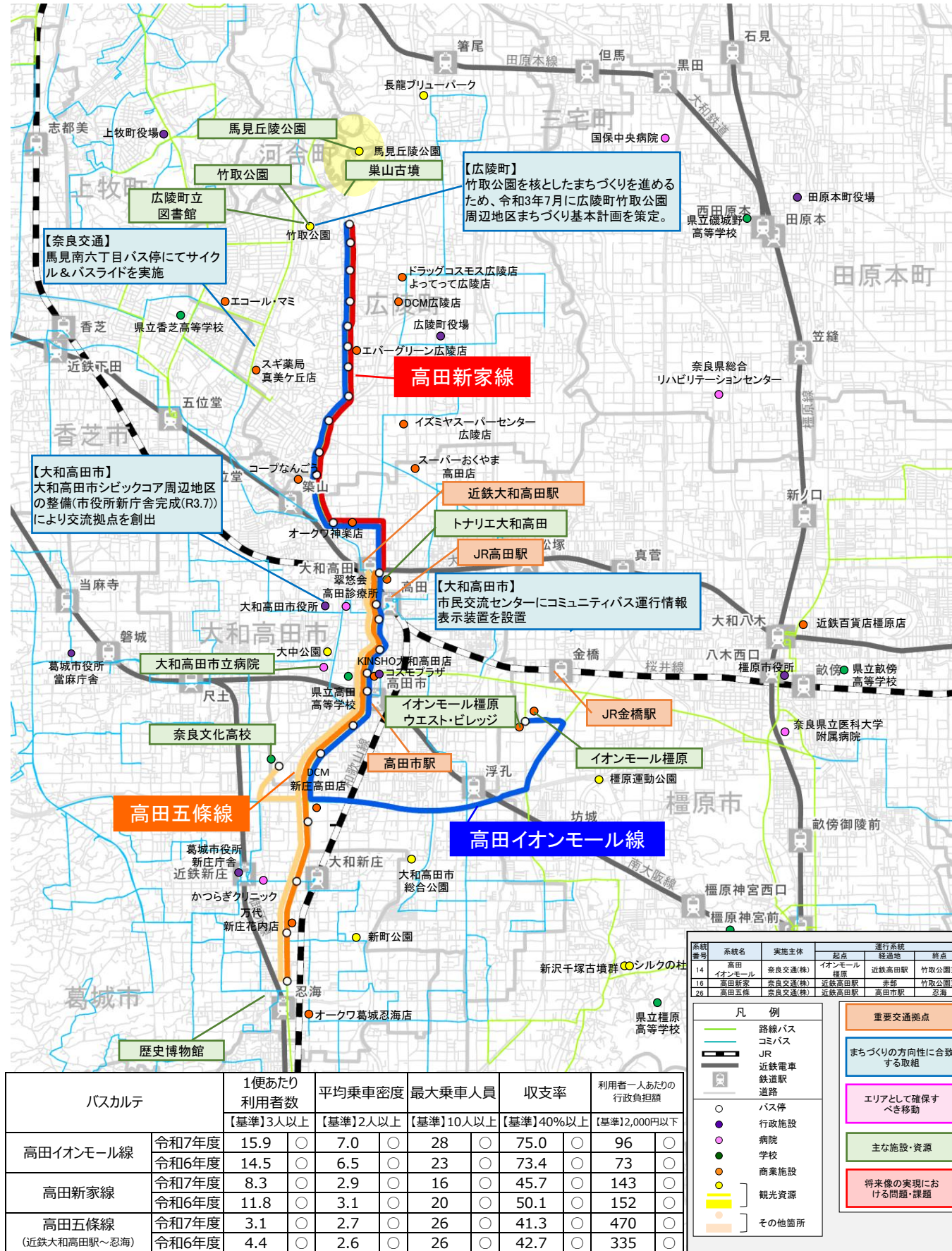
- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
- 上記施設は、自家用車での利用が多いため、公共交通利用への転換を図る仕掛けが必要
- JR金橋駅は需要が大きいイオンモール橿原の最寄り駅であるものの、利用者数が一日あたり605人と少なくなっている
- バス停の待合環境の改善や、駅のバス停から各施設へ傘をささずに行けるような利用環境の改善が必要
- 南都銀行馬見支店と箸尾支店の統合により、路線バス通勤者等に影響が及ぶ予測ができるため、沿線企業への利用促進等が必要

取組の方向性

- ー 住民向けー
- 【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 鉄道ー路線バスの乗り継ぎ利便性の向上と待合環境、利用環境の向上
- デジタル技術等を活用した新たな利用促進策の取組立案と効果的な情報発信

まちづくりの方向性(イメージ図)



バスカルテ		1便あたり利用者数	平均乗車密度	最大乗車人員	収支率	利用者一人あたりの行政負担額
		【基準】3人以上	【基準】2人以上	【基準】10人以上	【基準】40%以上	【基準】2,000円以下
高田イオンモール線	令和7年度	15.9	7.0	28	75.0	96
	令和6年度	14.5	6.5	23	73.4	73
高田新家線	令和7年度	8.3	2.9	16	45.7	143
	令和6年度	11.8	3.1	20	50.1	152
高田五條線 (近鉄大和高田駅～忍海)	令和7年度	3.1	2.7	26	41.3	470
	令和6年度	4.4	2.6	26	42.7	335

系統番号	系統名	実施主体	運行系統	経路	終点
14	高田イオンモール線	奈良交通(株)	イオンモール橿原	近鉄高田駅	竹取公園東
16	高田新家線	奈良交通(株)	近鉄高田駅	赤部	竹取公園東
26	高田五條線	奈良交通(株)	近鉄高田駅	高田市駅	忍海

凡例	
—	路線バス
—	コミュニティバス
—	JR
—	近鉄電車
—	鉄道駅
—	道路
○	バス停
○	行政施設
○	病院
○	学校
○	商業施設
○	観光資源
○	その他箇所

●	重要交通拠点
○	まちづくりの方向性に合致する取組
□	エリアとして確保すべき移動
■	主な施設・資源
■	将来像の実現における問題・課題

【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図(Vector(仮称)提供実験)」(国土地理院)のデータをもとに、コンバージョンGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

住民向けの取組

取組名	3駅エリアを核としたまちづくりとの連携
取組内容	・JR駅と近鉄駅の導線整備にあわせて、公共交通の利用促進を図る取組の検討・実施
実施主体・協力主体	大和高田市、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	通勤・通学需要の取込
取組内容	・通学や通勤時に自家用車を利用している層を公共交通利用に取り込むための取組や多様な交通モードを検討・実施
実施主体・協力主体	大和高田市、葛城市、広陵町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	地域住民参画による移動手段の確保の検討
取組内容	・鉄道・バスによるカバー率の低い不便地区について、地域住民の主体的な取り組みを支援し、住民参画により検討を深め移動手段の確保を図る
実施主体・協力主体	橿原市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	健診時のタクシーチケット交付事業(実証実験)
取組内容	タクシー利用の基盤構築のため、交通弱者である妊産婦に対し、妊婦・産婦・乳幼児健診時のタクシー移動の際に利用出来る電子タクシーチケットを交付
実施主体・協力主体	広陵町・タクシー事業者・システム事業者(GO株)
実施効果	タクシー利用の基盤構築、交通弱者支援
実施期間	R6.10～

取組名	地域公共交通計画・利便増進計画改訂事業
取組内容	令和9年3月末に期限満了となる、第1期地域公共交通計画・利便増進計画の改訂を行う
実施主体・協力主体	広陵町・国・奈良県・交通事業者・コンサル事業者
実施効果	地域に合致した効果的な公共交通施策の提供を可能とする。
実施期間	R8.4～

取組名	複数の交通モード間の円滑な移動の確保ならびに待合環境の改善
取組内容	・ダイヤ調整等により複数の交通モード(鉄道・バス)などの乗り継ぎ利便性を向上させるとともに隣接施設と連携しバス停等の待合環境改善に向けた取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通、沿線施設管理者、大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町
実施効果	公共交通の利便性向上、待合環境の向上
実施期間	R5.4～

取組名	デジタル技術の活用及び、デジタル技術の使い方の講座等の実施
取組内容	・デジタル技術を活用した公共交通の利便性向上を図る取組を検討・実施するとともに、デジタル技術に慣れていない人へのデジタル技術活用方法の周知方法を検討・実施
実施主体・協力主体	大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	工業団地の従業員の移動手段の確保の検討
取組内容	R7年度から操業が随時開始している箸尾工業団地(9社予定)における従業員の通勤手段について、コミュニティバスのルート再編、企業輸送バス等の各種移動手段の検討を行う
実施主体・協力主体	広陵町、交通事業者、工業団地事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R8.4～

取組名	沿線施設と交通事業者が連携した公共交通利用への転換
取組内容	・沿線施設(商業施設・病院施設)の利用は、自家用車利用が多く、公共交通(バス・鉄道)利用者が少ないことから、沿線施設と交通事業者が連携した公共交通利用への転換を図る取組の検討・実施
実施主体・協力主体	交通事業者、沿線施設管理者、大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	コミュニティバスの広告スペースを活かした「移動美術館」の実施
取組内容	市内公立小中学生が「葛城市」をテーマに考案したデザインをコミュニティバスの車内広告スペースに展示する「移動美術館」を実施し、コミュニティバスの利用者の増加を狙う。
実施主体・協力主体	葛城市、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R8.1～

取組名	地域公共交通基本計画策定事業
取組内容	令和9年3月末に期限満了となる、第1期地域公共交通基本計画の更新作業
実施主体・協力主体	葛城市、コンサル事業者、国、県
実施効果	質の高い公共交通を提供するためのマスタープラン
実施期間	R8.4～

中部E-2グループ

(関係市町村:大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市)

路線・地域の概要

- 関係市町村**
大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市
- 主な公共交通機関**
 - ・JR 和歌山線 桜井線(万葉まほろば線)
 - ・近鉄 橿原線 南大阪線 大阪線 御所線
 - ・奈良交通(八木五條線 高田五條線 八木新宮線)
 - ・コミュニティバス:きぼう号(大和高田市)、橿原市コミュニティバス、五條市コミュニティバス、ひまわり号(御所市)、れんかちゃんバス(葛城市)
- 主な利用データ※**

・JR高田駅	乗車人員	2,123人/日(R6)
・JR五條駅	乗車人員	972人/日(R6)
・近鉄二上山駅	乗降人員	1,171人/日(R6)
・近鉄大和高田駅	乗降人員	13,770人/日(R6)
・近鉄大和八木駅	乗降人員	34,158人/日(R6)
・近鉄高田市駅	乗降人員	6,266人/日(R6)
・近鉄忍海駅	乗降人員	1,357人/日(R6)
- 関係情報**
 - ・八木新宮線は高速道路を使わない路線では日本一の走行距離

- ・「橿原市地域公共交通計画(R5.3月)」に基づき各種施策を推進
- ・御所市北部と南部エリアにおいて、令和7年4月からコミュニティバスとデマンド交通の本格運行を開始
- ・「五條市地域公共交通計画(第2次ゴーちゃん交通計画)(R4.3月)」に基づき検討を実施
- ・「大和高田市地域公共交通計画(R4.3月)」交通結節点となる駅前まちづくりの推進、路線バスや病院送迎バス等との連携等の検討
- ・「葛城市地域公共交通計画」を令和3年度に策定し、コミュニティバス等の再編に向け、新たな実証運行計画について検討を実施
- ・和歌山線五條駅、御所駅を着地とする日帰り旅行商品「駅プラン」発売(R7年秋)
- ・JR西日本の月刊情報誌(イベント・グルメ・旅情報等を掲載)「西Navi」10月号に御所市を特集
- ・主に桜井線・和歌山線を走行する列車に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインを貼り付けた列車を運行(R7年8月～R8年3月)
- ・奥大和エリアの観光PRイベントをKITTE大阪で実施(土・日の2日間)(R7年11月)

- 令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・高田五條線、八木新宮線:診断指標5項目の達成

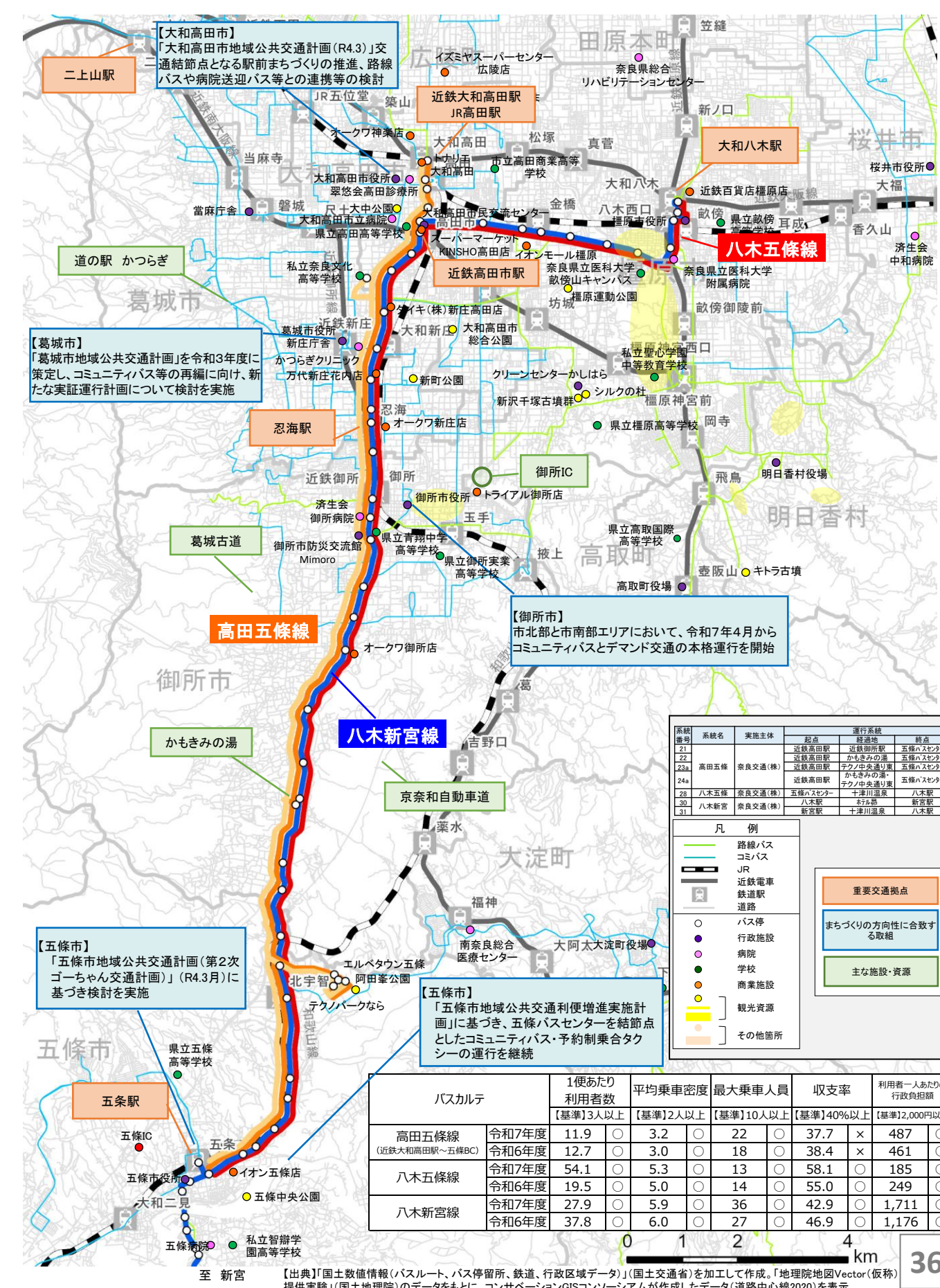
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 御所IC周辺では産業施設の立地誘導を検討している
 - 当該3路線は、買い物、通勤・通学、通院利用の他、観光、レジャーの目的で利用されている
 - 沿線近辺には、ハイキングコースとなっている葛城の道やかもきみの湯などが点在している
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 通勤・通学以外の利用者増に向け、潜在需要の取込と新たな交通需要を見つけることが必要
 - 企業立地にあわせて、公共交通の利用環境を整備するか
 - 公共交通利用増に向け、宿泊施設や温泉施設と連携した取組が必要

取組の方向性

- 住民向け—
【目標】買い物・通院等、必要な用事を車がなくても便利に
 - 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
 - 近鉄御所駅移設に併せた交通結節点の機能向上
 - 学生の公共交通利用促進に向けた取組の実施
- 観光客向け—
【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施
 - 公共交通を利用した観光モデルルートの立案・周知
 - 既存のコミュニティバスと周辺施設が連携したにぎわい創出の取組検討
- 現在誘致している御所IC周辺企業向け—
【目標】公共交通を利用した通勤のための取組実施
 - 企業誘致事業と連携した公共交通利用者拡大に向けた仕掛けの検討
 - 公共交通を利用した通勤のPR及びピンセンティブ付与の検討

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンパニオンGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

住民向けの取組

取組名	市コミュニティバス等の運賃負担軽減の取組実施
取組内容	・市コミュニティバスの利用状況等を鑑み、利用者負担額を200円から100円にするなど、見直しを行い、利用者の運賃負担の軽減を実施する。
実施主体・協力主体	五條市、奈良県
実施効果	公共交通の運賃負担の軽減
実施期間	R6.4～

取組名	地域住民参画による移動手段の確保の検討
取組内容	・鉄道・バスによるカバー率の低い不便地区について、地域住民の主体的な取り組みを支援し、住民参画により検討を深め移動手段の確保を図る
実施主体・協力主体	橿原市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	住民向けワークショップ等を踏まえての新たな公共交通モードの運行の検討・実施
取組内容	・R5年度～R7年度に実施した住民との意見交換を踏まえ、各地区で新たな公共交通モードの検討 ・新たな形での運行に関する実証運行及び利用環境整備として予約システムの導入を検討
実施主体・協力主体	五條市、県、地域住民
実施効果	公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加
実施期間	R7.4～

取組名	移動ニーズに応じた公共交通モードの提供
取組内容	・住民の移動ニーズを調査し、ニーズに応じた公共交通モードを検討し、自家用車から公共交通利用への転換を図る
実施主体・協力主体	大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R4.4～

取組名	五條市地域公共交通計画及び利便増進実施計画の策定
取組内容	実証運行の形も踏まえることや、中心市街地地区のまちづくりの計画を盛り込みながら、次期公共交通計画及び利便増進実施計画の策定を実施予定(計画時期:R9年度～R13年度)
実施主体・協力主体	五條市、奈良交通、五條二見交通、野原タクシー(五條市内タクシー会社)、奈良県、国
実施効果	公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加
実施期間	R9年度～R13年度

取組名	近鉄・JR御所駅の交通拠点としての機能強化
取組内容	・近鉄・JR御所駅が一体となった駅前空間の整備や御所中心市街地地区のまちづくりを進め、交通拠点としての機能強化を検討・実施
実施主体・協力主体	御所市、奈良県、交通事業者
実施効果	鉄道駅の交通拠点機能強化
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	中心市街地地区のまちづくりの推進
取組内容	イオン五條店、五條バスセンターを含めたの中心市街地のまちづくりについて、地域の活性化やにぎわいの創出を目指し、公民連携による(仮称)五條市市民交流施設を整備
実施主体・協力主体	五條市、奈良交通、商業施設、南都銀行
実施効果	公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.12～R11年度初旬

取組名	公共ライドシェア実証実験および時間帯交通空白調査分析
取組内容	・公共ライドシェアによる「地域の移動手段」の確保及び、運行に関するデータやアンケート調査等をもとにした時間帯による交通空白の調査・分析
実施主体・協力主体	大和高田市
実施効果	公共交通の利便性向上及び今後の課題解決検討
実施期間	R7.12.11～R8.1.31

取組名	五條市利便増進実施計画に基づくコミュニティバス等の運行継続
取組内容	・「五條市地域公共交通利便増進実施計画」に基づき、五條バスセンターを結節点としたコミュニティバス・予約制乗合タクシーの運行を継続
実施主体・協力主体	五條市、奈良交通、五條二見交通、野原タクシー(五條市内タクシー会社)、奈良県、国
実施効果	公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.9～R9.3

誘致している御所IC周辺企業向けの取組

取組名	企業誘致事業と連携した公共交通利用促進
取組内容	・企業誘致担当部局と連携し、通勤需要を取り込めるような取組の検討・実施
実施主体・協力主体	奈良県、御所市、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R6.4～

観光客向けの取組

取組名	観光客向けモデルルートの作成・展開
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成・展開
実施主体・協力主体	大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	既存のコミュニティバスと周辺施設が連携した観光イベントの企画・実施
取組内容	・滞在型観光者の増を図るため、コミュニティバスと周辺施設が連携して観光イベントの企画・実施
実施主体・協力主体	大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通を利用する滞在型観光者増
実施期間	R5.4～